

野口裕介さん(47)

綾部市岡安町

県域を越えて人と人をつなぎ、北近畿を活性化することをコンセプトとする北近畿経済人リレーインタビュー。今回は(株)S HOWA(綾部市十倉町)の出口幹恭さん(44)からバトンを引き継いだ公栄精密株(綾部市岡安町)の野口裕介さん(47)に話を聞いた。

「公栄精密株について、日東公進や日東精工(同市)の仕事をするようになったのが始まりです。他社とも取引するようになり、1984年に法人化しました。私は2代目です。産業機械に使われる精密部品を作っています。鉄やアルミ、ステンレスなどの金属を切削加工しています。今の時代は作業一式で引き受けないと仕事を取りづらいので、組み立



ても行っています。受注量を確保するため多品種少量生産で、外注も利用しながら「何でもできる」とうたい、ここ10年くらいは1年に1社くらいペースで取引先を増やしています。安定した
受注量を確保するため、色々な業種の取引先を維持したいです。わすかな時間差で受注を逃すことがあるので、問い合わせには早く回答していただきます。例えば、車で行ったケースが必要となり、今年3月には経済産業省から「健康経営優良法人2021」の認定を受けました。社内では、たばこをやめた▽飲酒量を減らした▽散歩をするようになった▽などの効果が出ています。
「健康経営」に取り組む、今年3月には経済産業省から「健康経営優良法人2021」の認定を受けました。社
野は？
「販路拡大を狙う分野は？」
「これから挑戦したいことは？」
「これからの商品を作って販売したいです。日常生活の中で、何か世の中を便利にするようなものではないでしょうか」と考えています。ですが、アイデアが思いつかびません。いつか実現したいと思いつても、今は取引先から要望があったものを確実に作ることに重点を置いています。
「一次の経済人を紹介してください」
「科研テクノス株(福知山市)の浅倉寿さん。色々なことにチャレンジされている元氣な方です。[樋口]

臨機応変の対応が強み 自社ブランドも視野に



プロフィール
のぐち・ゆうすけ 1973年9月30日生まれ。綾部市出身。府立工業高校を卒業後、大阪市の専門学校でCADを学ぶ。めっき装置を作る京都市の会社で働いたのち、父が経営する公栄精密株に入社。日東公進株への出向などを経て、2016年に代表取締役就任。家族は妻と3女。趣味は車。

「課題は？」
「人材育成です。従業員はベテランが多く、創業時から働いている人もいます。企業にとって一番大事なのは「人」なので、これからは若手も育てる必要があります。あとは自社の知名度